技術情報はこちらから

令和７年産 麦作情報（Vol.2）

令和7年2月28日
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612　FAX:0225-95-2999
https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

今後のポイント：麦踏み、追肥、雑草防除、排水対策

1 気象経過

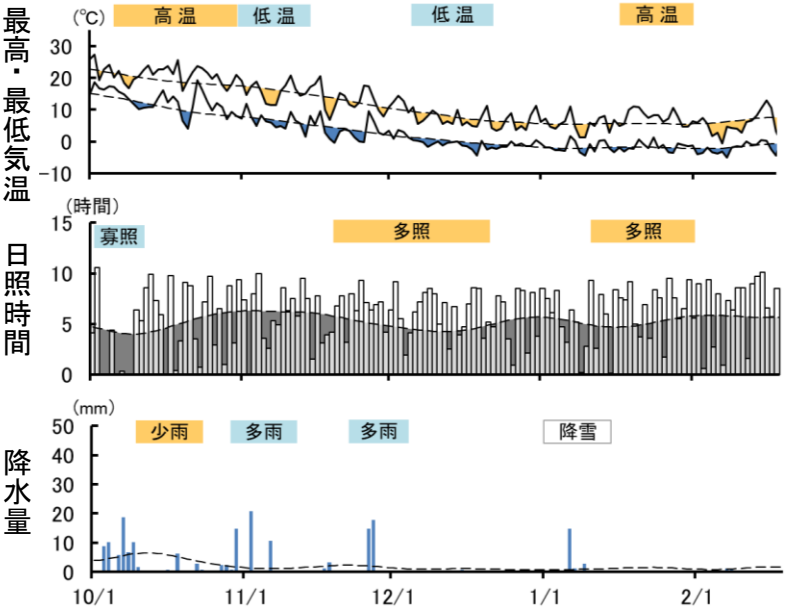

図1　気象経過（アメダス石巻）
※上：最高・最低気温、中：日照時間、下：降水量、点線は平年値

◆1か月予報（2/15 - 3/14）

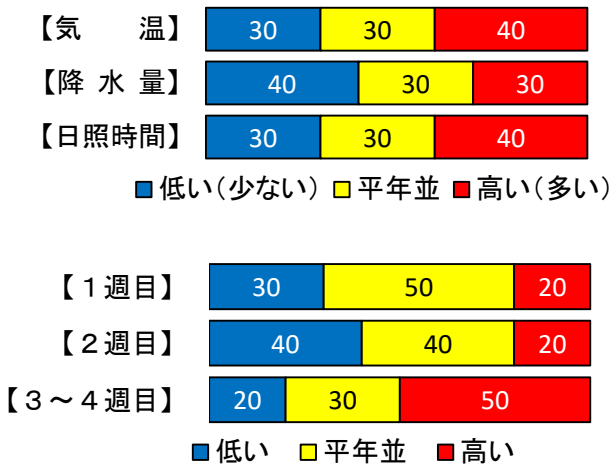

図2　季節予報（2/13 仙台管区気象台発表）
※ 上図：1か月の気温、降水量、日照時間予報
　下図：週ごとの気温予報

◆気象経過

- **平均気温**…12月は低く（平年差−0.6℃）、1月は高く（平年差+0.4℃）なりました。
- **日照時間**…12月（平年比123%）、1月（平年比117%）ともに多照傾向となりました。
- **降水量**…12月（平年比8%）、1月（平年比57%）ともに少雨傾向となりました。

2 生育調査ほの生育状況（2月12日現在）

- 草丈は、シュンライを除く4ほ場では平年より長く、シュンライでは平年より短い傾向です。
- 茎数は、高須賀ミノリムギ・ホワイトファイバーで平年より多く、真野ミノリムギで平年並、シュンライ・シラネコムギで平年より少ない傾向です。
- 幼穂長は、シュンライで前年・平年を大きく下回っていますが、ほぼすべてのほ場で平年並みかやや平年より長い傾向です。

表1　生育調査ほ　2月12日調査結果

品種	調査ほ（旧市町）	播種日（月日）			草丈（cm）			茎数（本/㎡）			幼穂長（mm）			葉色（spad）
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年
シュンライ	城内（桃生）	10/24	+22日	+10日	11.4	−8.0	−2.2	666	84%	92%	0.9	−2.4	−1.1	37.8
ミノリムギ	高須賀（桃生）	10/20	+6日	−1日	12.6	+0.4	+1.6	1003	117%	172%	1.4	+0.1	+0.5	41.1
	真野（石巻）	10/24	−4日	−7日	11.3	−0.9	+1.6	639	76%	104%	1.1	+0.2	+0.3	42.8
ホワイトファイバー	水沼（石巻）	10/16	+2日	−5日	13.8	+0.2	+2.8	1002	94%	129%	1.7	−0.2	+0.5	30.6
シラネコムギ	樫崎（桃生）	11/01	+7日	+5日	13.9	+4.9	+2.0	624	66%	91%	0.2	−0.6	−0.1	34.3

※平年差・比は過去5か年の平均値との比較。播種日の+は遅い、−は早いことを示す。

3 今後の管理

(1)「麦踏み」 ～ほ場が乾いている時に、茎立ち前までに行いましょう！ ～

◆ 麦踏みは、融雪後、**茎立ち前（主稈長2cm程度で、幼穂長2mm程度）まで**に行いましょう。

◆ 土壌が湿った状態で麦踏みを行うと、土壌が固く締まり、根の伸長阻害や排水性悪化の原因となります。**作業は、必ずほ場が乾いた状態で行い**、ほ場が乾かないうちは無理に行わないようにしましょう。

◆ 湿害によって葉の黄化や生育量不足が著しい場合や、鳥類による食害が見られる場合には、効果が十分に得られないので、麦踏みを行う必要はありません。

(2)「追　肥」 ～ 幼穂長を確認し、適期追肥に努めましょう！ ～

① 株直し追肥 ・・・ 生育量不足、葉の黄化、鳥害からの回復

◆ **融雪後の生育量が小さい場合（㎡当たりの茎数が400本以下、図3参照）や、葉の黄化が著しい場合**等に、N（窒素）成分で1～2kg/10a程度施用します。 茎数が多く、葉色の低下も見られないほ場では不要です。

◆**鳥類による食害の著しいほ場**では、融雪後ほ場に入れるようになったら、新葉の生育促進のため株直し追肥を行いましょう。施用量はN（窒素）成分で1kg/10a程度が目安です。

図3 茎数の目安 （シュンライ、条間30cmの例）

② 幼穂形成期追肥（追肥時期：幼穂長約2～3mm） ・・・ 穂数の増加

◆ 麦類は幼穂長が2mmを超える頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進むため、**この頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招きます。**その一方で、過剰施用は節間伸長を助長し倒伏の原因となるので、**適期・適量施用に努めましょう！**

◆ 追肥一発型肥料は、大麦においては、株直し追肥、又は幼穂形成期追肥のうち1回目の追肥時期に施用し、それ以降の追肥を省略できると考えられます。

表2 追肥の施用時期と施用量の目安

追肥の種類（生育ステージ）			幼穂形成期（幼穂長2～3mm）	減数分裂期（幼穂長30mm）	穂揃期（8～9割が出穂）
目　的			有効茎歩合増加（穂数の確保）	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質含有率の向上
大麦	時期	シュンライ，ホワイトファイバー	2月下旬～3月中旬	4月中旬	―
		ミノリムギ	3月上旬～4月上旬	4月下旬～5月上旬	
	10a当たり施用量		窒素成分2.5kg（硫安12kg）	窒素成分2.5kg（硫安12kg）	硬質麦防止のため実施しない
小麦	時期		3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり施用量		窒素成分2.5kg（硫安12kg）	窒素成分5kg（硫安24kg）	シラネコムギ 窒素成分2.5kg（硫安12kg）
					夏黄金 窒素成分5kg（硫安24kg）

※ 時期は平年の場合の大よその目安であり，実際には現地ほ場の幼穂長を見てから追肥時期を判断しましょう。

（3）雑草防除～ 雑草の発生状況に応じて、除草剤（茎葉処理剤）の散布を検討しましょう ～

表3　土壌処理剤と茎葉処理剤を使用した防除体系

月		10月	11月		2月	3月	4月	5月
生育ｽﾃｰｼﾞ	大麦	播種	出芽		幼形期	減分期	出穂期	
	小麦	播種	出芽		幼形期	減分期	出穂期	
除草剤		土壌処理剤			茎葉処理剤			

注意：幼穂形成期及び節間伸長期を過ぎると使用できる除草剤が少なくなるので、**適期に防除しましょう**！

ハーモニー75DF（広葉、スズメノテッポウ）
バサグラン液剤（広葉）
MCPソーダ塩（広葉）

表4　茎葉処理剤の適用情報

除草剤名	作物名	対象	使用方法	使用時期	使用回数	作用機構分類	希釈倍数使用量（散布液量）
ハーモニー75DF	小麦	スズメノテッポウ	雑草茎葉散布または全面散布	麦3葉期～節間伸長前	1回	HRAC:2	5～10g/10a（50～100L/10a）
		一年生広葉雑草		節間伸長開始期～穂ばらみ期（但し、収穫45日前まで）			3～10g/10a（50～100L/10a）
	大麦	スズメノテッポウ		麦3葉期～節間伸長前			5～10g/10a（50～100L/10a）
		一年生広葉雑草					
バサグラン液剤（ナトリウム塩）	麦類（小麦を除く）	一年生雑草（イネ科を除く）		生育期（但し、収穫90日前まで）	1回	HRAC:6	100～200ml/10a（70～100L/10a）
	小麦			生育期（但し、収穫45日前まで）			
MCPソーダ塩	麦類	一年生及び多年生広葉雑草		（秋播麦類）幼穂形成期（但し、収穫45日前まで）	1回	HRAC:4	200～300g/10a（70～100L/10a）

※令和7年2月19日の農薬登録内容を基準に作成しています。農薬散布を行う場合は事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。農薬使用の際には薬剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。農薬使用に先立ち、ラベルの表示事項を必ず読み、安全使用上の対策等について確認してください。

【土壌処理剤だけでは抑えにくい雑草】

(診断に基づく小麦・大麦の栽培改善技術導入支援マニュアル(総合版)農研機構2020より)

☆**「ハーモニー75DF」は節間伸長前の散布が効果的です**（一年生広葉雑草、スズメノテッポウ ）

・大麦の茎立ち期頃から発生する一年生広葉雑草発生量が多いほ場においては、土壌処理剤効果も期待できる茎葉処理剤「ハーモニー75DF」を**節間伸長前に**10g/10a（希釈水量100L）散布することで、その後の雑草発生密度を低下させることが期待されます。